

令和2年8月20日

8月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では梅雨期の長雨、原木価格の安値の影響により原木生産は減少している。このため県内各共販所への入荷は少な目になっている。スギの小径木・柱材は全般的に動いているが、スギ中目材の動きが鈍い。スギ小径材は強保合、スギ柱材とヒノキ材は保合だが、スギ中目材は弱保合で推移している。

群馬県でも原木出材量は減少し、また虫害が酷く、集荷できない状況にある。原木は当用買いで手当てしている。製材工場の土場在庫はほとんど無く、伐採後すぐに引取り製材している。工場の操業は通常の9割程度を維持。受注は8月に入り増えているが、ロットが細かい。製品市場向けは減少しており、ホームセンター向けも一段落した。土木用材にやや引き合いがある。製品価格は低位安定で落ち着きを取り戻しつつある。

2. 米材

カナダ私有林最大手のMOSAIC社の伐採は6/24より再開されたが、本格稼働までには時間がかかる模様である。このため原木在庫の積み上げは始まっておらず、依然として港頭在庫は非常に低水準である。米国製材品価格は7月下旬に2018年につけた史上最高値を更新した。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(7/31)は\$627/Mで7月頭に比べ25.9%アップ。それに伴い、米国内原木価格も上昇中である。8月積み米マツIS級並の対日輸出価格(推定)は前月に比べ\$30アップの\$830になった模様。また対日製材品価格について第3・四半期は\$10/M程度のアップで落ち着きを見せているが、今後、上昇は避けられない状況にある。

6月原木入荷量は175千 m^3 と5月に比べ回復、1~6月累計で967千 m^3 (前年同期比27%減)。カナダからの入荷が前年同期比で74%減となった。出荷量は128千 m^3 、1~6月累計で947千 m^3 (同26%減)と低調。在庫量は増加し198千 m^3 、在庫率は1.25ヵ月。国内米マツ製材工場の荷動きは徐々に落ちており、稼働は前年同期比で15%程度の減になっている。東京木材埠頭の7月入荷は20千 m^3 (前月比1.7%増)、出荷は19千 m^3 (同5.8%減)、在庫は35千 m^3 (同0.3%減)。

3. 南洋材

サラワク州は本来乾季であるが、降雨が多いため原木生産は低調である。主要輸出先であるインド向けの配船が少なくなったタイミングで日本向けの出荷が増えている。PNG では全域で天候が悪く、原木生産は低調。コロナショックの影響で日本の需要が減少し、8月以降の日本向け出荷は、合板・製材用ともにしばらくは無い予定。マレーシア、インドネシアともに製材生産は正常化してきたが、各国からの引き合いが低調のため成約は減少。8月予想の原木入荷、出荷量はそれぞれ7千 m^3 、在庫量は26千 m^3 、製材品入荷は33千 m^3 。

4. 北洋材

シベリアの対日向け主力工場は新規注文が取れず、契約残の消化後は休業の話しが出始めた。コロナの影響の長期化で諦めムードの様相。中国市場が引き続き軟調で、これも減産・休業の要因になっている。現地挽き完成品の荷動きは緊急事態宣言明け後に多少回復したものの、港頭在庫過多のニュースで当用買いとなっている。東京木材埠頭の倉庫に入りきれず、やむなく野積み保管となっている。一部で狼狽売りが始まっている。国内完成品は現地挽き完成品の価格下落で値下げせざるを得ない状況で、コストの高い原板在庫の処理に頭を悩ませている。国内メーカーはDIY、ビルダー現場向けの受注は順調だが、現地挽き完成品の安値に押されて値下げとなっている。8月予想の原木入荷・出荷量とも2千 m^3 、在庫量は16千 m^3 。製品は入荷量(東京+川崎)15千 m^3 、出荷量20千 m^3 、在庫量69千 m^3 。

5. 合板

合板用原木の国産材はメーカーが仕入量を減らしており、価格は弱含みのまま。ロシア材は弱含みで大きな変化はない。米材は弱含み状況が続いている。南洋材は悪天候により一部地域で出材が困難となっているが、今のところ大きな影響は見られない。

6月の国内合板生産量は23.0万 m^3 、うち針葉樹合板は22.3万 m^3 、出荷量は22.6万 m^3 で、在庫量は17.3万 m^3 、うち構造用合板の在庫は14.6万 m^3 となり、前月に比べ減少した。針葉樹合板は停滞した荷動きが続いており、価格も安定しない状況にある。各メーカーが減産体制を維持しており、先行きゆっくりと価格の引き締めが進むものと見られる。輸入合板の荷動きは良くないが、入港量の減少等により少し需給バランスが取れ始めており、下げ止まり感が出てきた。先行き横ばいで推移するだろう。6月合板輸入量は18万 m^3 で、今年二番目に少ない量となった。マレーシア、インドネシア産とも今年一番少ない入荷量で、特にマレーシア産の入荷が少ない。インドネシアでは悪天候

で、一部で出材に問題があるが、引き合いが少ないため落ち着いている。マレーシアでも天候の影響で原木入荷が遅延しており、各工場とも受注不足で厳しい状況。

6. 構造用集成材

7月のラミナ入荷は遅延のコンテナ入港でやや多くなった。8月は適正量の入荷で、9月入荷は現地メーカーの夏期休暇で例年通り少なくなる模様。第3・四半期の価格は第4・四半期とほぼ横ばい推移だが、円安により輸入コストは上昇している。輸入集成材の第3・四半期の契約は約5ユーロの値下げとなった。前回契約時は為替レートが120~122円で推移し、今回は2~3円の円安に振れているので、輸入コストは前回並みとなる。プレカット工場では荷動きの不透明感から契約量を減らしている工場が多い。輸入集成材と積層間柱の港頭在庫が多くなっている。

7. 木材チップ

集中豪雨で林道が崩壊し、出材が止まった現場があり、チップ原木の入荷量は減少している。解体材も長雨の影響による作業の遅れ、物件の減少で入荷量は減少傾向にある。製紙用チップは一部製紙会社の操短が残るものの、大型定期修理が終了したため消費量は回復傾向にあり、在庫量は減少している。燃料用チップの消費量も回復傾向にあるが、長雨の影響で含水率が高く、各社とも品質管理に苦慮している。燃料用チップは消費量の回復と発生量の減少が相まってタイト感が一段と強まっている。

8. 市売間屋

7月に入り、一段と市況は悪く、雨天続きで構造材、造作材とも動きが悪い。価格を下げれば売れるという雰囲気もない。特に東京では新型コロナウイルス感染症の影響が出始めている。材木店は先行きの仕事が見えないため、必要買いに徹している。持続化給付金に続き、家賃給付金を申請する会社が多くなっている。

9. 小売

本来なら梅雨明けし、盆休みに向かって忙しくなる時期であるが、今年は長雨とコロナ感染症の影響でなかなか活気が戻ってこない。日によって取引数も上下し、商品のカビや腐れに注意しながらの営業となっている。スギ、ヒノキ構造材は記念市、特売会が再開されたが、荷動きの停滞感が強い。外材構造材では米マツの値下げを端緒に動きが慌ただしい。国内挽き米ツガのハイグレード品(3m)の入荷が少なく、手当てに苦労している。造作材では欧州材の品薄感は緩和されており弱保合。ロシア材は一部メーカーの品物は引き合いが強いものの、リフォーム、イベント、舞台関係の動きが戻っていないため弱基調である。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	↘	↗
北洋材	丸太	→	→	→
	製材品		→	↘
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↘
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	↘
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
		メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→	
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
東京・問屋店頭 渡し価格		同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→	
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	↘
			アカマツ (KD) 16×40上級	↘
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↘
			ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	→
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↘
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↘
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↘
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→